新潟県燕市・社団法人つばめいと ＆ 早稲田大学
地域連携ワークショップ 2026

地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、お土産、観光・・・・自治体が抱える課題の解決策を、学生チームが提案する実践型ワークショップです。学部・学年を超えて集まった学生同士が議論しながら仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリングなどを通して提案につなげます。地域の魅力を知り、課題を深く考え、仲間と協働することは、成長の機会になります。

おススメのポイント！

- ●現地調査の実施を含む対面・オンライン各型式のハイブリッドで進める課題解決プログラムです
- ●市長をはじめ自治体、企業、学校の方々に、直接ヒアリングする貴重な機会があります！
- ●グローバル・エデュケーション・センター全学副専攻「地域連携・地域貢献」実践領域の対象プログラム（2 単位相当）です。（注意事項⑩要参照）

テーマ

燕の製造業をリブランディングし、企業の人材不足を解決せよ

燕市は、江戸時代から続く「ものづくりのまち」。現在、金属洋食器の国内シェアは 90%以上を誇り、ノーベル賞の晩餐会や G7 サミットの贈答品にも採用されるなど、実は「世界の TSUBAME」としてその技術力を世界に轟かせており、市自体が連綿と続いてきたものづくりの系譜に支えられてきたという特徴があります。

しかし今、そんな燕市に所在する企業の多くが人材不足という課題に直面しています。人材の確保と定着、後継者不足、事業承継といった様々な側面を持つこの課題に、多くの経営者が頭を悩ませています。さらには、物価高や原油高などにより企業を取り巻く環境は厳しさを増しており、この現状を乗り越えていくべく、市は「稼ぐ燕市」を掲げ、DX 推進や職場の環境整備など、主に企業を対象とした支援を講じています。しかしながら、多くの若者にとっては、ブルーカラーへの先入観やジェンダーギャップが未だ存在し、そもそも「製造業」が、就職の選択肢に入っていないのが現状ではないでしょうか。

そこで、本プログラムでは、製造業をリブランディングすることで、若者の持つ「地方＝衰退」、「製造業＝男社会」、「製造業＝労働集約型（非知的集約型）」といったイメージを刷新し、若者が燕の製造業を新たな就職先として知り、関心を持つための方策を考えます。そのうえで、人材不足の現状や原因を踏まえ、自治体や企業が取り組むべき実践的な施策を提案していただきます。

燕市の魅力

燕市は新潟県の中心に位置し、上越新幹線の「燕三条駅」は東京から約 2 時間。金属加工品の産地として有名ですが、日本さくら名所 100 選に選ばれた「大河津分水桜並木」には、1,000 本以上のソメイヨシノが堤防沿いに咲き誇り、観光も楽しめます。また、車で 30 分も走れば海も山も温泉もあり、「背脂ラーメン」などのソウルフードも人気です。
江戸時代の禅僧であり、詩人・歌人・書家でもあった良寛が晩年を過ごし、その芸術性が円熟期を迎えた地でもあります。２月は県全域で降雪のある時期ですが、燕市は比較的雪の少ない地域で、程よく雪のある生活、四季を楽しめます。






募集概要

募集期間	2026 年 11 月 13 日（金）～12 月 2 日（水）正午 [期間厳守]
募集対象	早稲田大学に在学中の正規学部生・大学院生（修士課程）（学部、専攻、学年問わず） ※ただし、活動期間中に休学予定の学生を除く
応募条件	**原則として事前説明会（オンライン）への出席 および 全ての公式日程（次頁）への参加が可能なこと**
募集人数	2 チーム（10 名程度）
応募方法	**1．事前説明会（オンライン）【応募の際には必須参加】** 日程：11/13（金）、11/19（木）、11/25（水）、12/1（火）12:30～12:50（全日程） ※参加・申し込み方法等、詳細は配信メール、GCC オフィス Web および Instagram でご案内しています。 ※すべての回で内容は同じです。上記 3 日程のうち、いずれかの回にご参加ください。 ※参加任意となりますが、事前相談会（12:50～13:10）も上記日程で実施します。 **2．事前説明会参加後、以下の手順もしくは右の QR コードのリンク先から応募** ① MyWASEDA にログイン ② お知らせ一覧から「地域連携ワークショップ 2026 春編」を検索 ③「地域連携ワークショップ 2026 春編応募フォーム」から「申請」をクリック 必要事項（志望理由、ワークショップ期間中のスケジュールなど）を入力して申請
選考方法	書類選考：結果通知は**2026年12月22日（火）までにWasedaメール**にて通知します。
注意事項	① 当ワークショップは一般授業とは扱いが異なります。成績評価・単位認定等はありません。 ② フィールドワーク（現地調査）の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。活動地は早稲田キャンパス、燕市内となります。 ③ 【重要】公式日程以外にも、自主的にミーティングやグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。 ④ オンライン実施の場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないよう措置を講じてください。 ⑤ 現地調査自己費用負担：往復交通費（自宅⇔現地集合場所）・宿泊費・食費等 ＜交通費目安＞東京駅～燕駅往復 19,320 円（新幹線／指定席、在来線） ＜宿泊費＞つばめ産学協創スクエア（相部屋）食事なし・宿泊費無料 **※但し、後日新潟県の制度利用により、交通費の半額補助を受けることが可能です。また、大学より地域連携ワークショップ活動助成金として補助があり、最終的には交通費、宿泊費の自己負担額は 10,000 円程度になる見込みです。** ⑥ 【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施される企業連携ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。また、同時期に実施する地域連携スタディツアーに参加が決定している場合も応募はできませんのでご注意ください。 ⑦ 当ワークショップは複数の地域（第 2 希望まで）に応募することができますが、最終的に参加できるのは 1 地域のみです。当地域を第 1 希望として申請し、選考を通過した場合はその時点で第 2 希望の地域のワークショップには参加できなくなります。 ⑧ 早稲田大学の学生補償制度（傷害補償・賠償責任補償）に加入いただきます。 ⑨ ワークショップ実施日と重複する正規授業等を欠席した場合でも、**公欠扱いとはなりません。** ⑩ グローバル・エデュケーション・センター全学副専攻「地域連携・地域貢献」の対象プログラムです。 注 1：2027 年 3 月卒業予定で副専攻修了を目指される方は、認定手続きのスケジュールの都合上、副専攻の単位相当にはなりませんので、ご注意ください。 ⑪ ワークショップでは連携先、大学がインスタグラム等公式 SNS を含む広報活動の目的で写真・映像を撮影します。あらかじめご了承ください。 ⑫ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。 ※プログラム内容等は変更が生じる場合があります。
問合せ先	Office of the Global Citizenship Center（GCC オフィス）：rbso@list.waseda.jp ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部／研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。

ワークショップスケジュール（公式日程）

授業等により、やむを得ず欠席／遅刻／早退となる可能性がある場合は、その日程と理由を応募の際にお知らせください。

	予 定		日 程	内 容
①	**オリエンテーション @早稲田大学**	**事前調査期間**	**1/15（金） 17:30～ 20:00**	**・参加者（学生／職員／自治体担当者）顔合わせ ・自治体担当者から、課題およびテーマ設定に至った背景の説明 ・今後のスケジュール確認、事前調査の進め方などの説明**
②	**交流会 @早稲田大学**		**1/20（水） 17:30～ 20:00**	**・ミニゲームなどを通して参加学生同士の親睦を深める ・フィールドワーク前の注意事項確認/チーム発表**
③	**対面グループワーク @早稲田大学**		**1/28（木）**	**・コアタイム：9:00～11:00（参加必須）** ※活動時間は、コアタイムを含む 9:00～17:00 の範囲内で、参加学生の都合を確認のうえ決定します。
④	**オンラインヒアリング （@Zoom）**		**2/3（水） 2/4（木）**	**・現地調査に向けて、仮説検証等に必要なヒアリングを行う ※ヒアリング先のご都合に応じて実施時間は流動的となるため、左記の日程はスケジュールを空けておくようにしてください。**
【事前調査期間】 ・地域やテーマに関する調査／情報収集などを行い、チームとしての仮説を立てる ・オンラインヒアリング、現地ヒアリングの希望先、市長への質問内容等を検討し、1/29（金）17:00 までに自治体へ提出				
⑤	**現地フィールドワーク @燕市**		**2/14（日） ～2/17（水） 【3泊4日】**	**・燕市長との懇談（2/16）および市の関係者の方々等へのヒアリングを実施 ・燕市内の該当施設などを訪問**
⑥	**対面グループワーク @早稲田大学**	**追加調査期間**	**2/24（水）**	**・中間報告会前にグループワーク ・コアタイム：9:00～11:00（参加必須）** ※活動時間は、コアタイムを含む 9:00～17:00 の範囲内で、参加学生の都合を確認のうえ決定します。
⑦	**中間報告会 @早稲田大学**		**2/26（金） 14:00～ 17:00**	**・提案内容の報告 ・自治体担当者（@オンライン）、大学職員が参加予定**
⑧	**対面グループワーク @早稲田大学**		**3/5（金）**	**・プレ報告会前にグループワーク ・コアタイム：9:00～11:00（参加必須）** ※活動時間は、コアタイムを含む 9:00～17:00 の範囲内で、参加学生の都合を確認のうえ決定します。
⑨	**プレ報告会 @早稲田大学**		**3/10（水） 14:00～ 17:00**	**・最終報告会に向け発表練習** ※報告会後はグループワーク用に会場開放予定
【追加調査期間】 ・現地フィールドワークや中間／プレ報告会でのフィードバック等をふまえ、提案の再検証およびブラッシュアップ				
⑩	**最終報告会 @早稲田大学**		**3/19（金） 14:00～ 17:30**	**・首長や自治体関係者や地域住民の方々（@オンライン）に向けて提案を発表（約 2 時間 30 分） ※最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会（1 時間 程度）を実施します。**

※上記公式日程以外でも、必要に応じてチーム内で相談・日程調整をし、自主的に活動（ミーティング・グループワーク・追加ヒアリング等）の上、ワークショップを進めていきます（学生同士の話し合いに大学職員や自治体関係者が参加することもあります）。

実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く
  ↓
- 事前調査：
  個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。
  課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。
  どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかリスト化
  ↓
- 現地調査・ヒアリング：
  自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）
  ↓
- 最終提案資料作成：
  現地調査やヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる
  ↓
- 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション

学生同士で時間を決め、対面での打合せや Zoom 等で議論を進める

過去のワークショップ参加学生の声 ※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

ワークショップでの活動を振り返って

●「学生だけじゃ何も変えられない」から**「学生だから変えられる」という経験**ができました。（社会科学部 1 年）

●**インターネットで得られる情報は一部に過ぎず、生の声を聞いて初めてわかる**ことがたくさんあった。（中略）また、自分のアイデアを言語化する難しさを痛感した。（文化構想学部 2 年）

●今までにない視点を発見することができたことがもっとも大きな収穫でした。（中略）**机上の空論でない地方創生とは何か**を学ぶことが出来ました。なかなか大学にいても学べないことであったので貴重な経験となりました。（政治経済学部 3 年）

チームメンバーとの関わりを通して

●元々考えていた案がヒアリングなどを通じて崩れても、また新たなものを考えようと前向きになれたり、（中略）**ひとりではなくチームで提案を構築することの素晴らしさや難しさ**を体験できたので、今後に活かしていきたいです。（教育学部 2 年）

●自分の長所や短所を発見することができたし、**意見を出すことの躊躇いがなくなりました**。小さな意見や変わった意見でも言葉にすることで、新たな提案に繋がったこともあったため、発言に自信を持てるようになりました。（スポーツ科学部 2 年）

●あまり自己主張が得意ではなく、自己肯定感も低めだった自分ですが、今回の WS を通して**相手の考えを尊重しながらも自分の意見を主張する大切さ**を学び、自分の得意なこともチームメンバーに教えてもらいました。（人間科学部 3 年）

「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

●自分が住む地域をよりよくするために、**行政の方々だけでなく、ヒアリングでお伺いした多くの方々がそれぞれ熱い思いをもって様々なことを考えていらっしゃることがとても印象的**でした。今思えば、ワークショップ参加前は「地域貢献」「地方創生」といったキーワードを軽く考えていたと思います。（教育学部 1 年）

●ヒアリングを通して、「地域貢献」「地方創生」はその地域に愛着をもって創生したいと思って進んでいる方々を尊敬し、**その方々が感じている魅力に寄り添っていく延長線上にある**と強く意識するようになりました。（創造理工学部 1 年）